

社会科の地理分野の入試問題でしばしば出題される、複数の指標から都道府県の特徴を読み取る問題です。単に統計の数字だけではなく、それぞれの地形や産業の特徴をとらえて想像力を働かせる必要がある問題です。

まずAは、標高2000m以上の山の数が多いことが特徴です。これは日本一の高さを誇る富士山と、赤石山脈（南アルプス）の存在が関係しています。愛知県は木曾山脈（中央アルプス）の南端が位置しますが、2000mを超える山はありません。なお、政令指定都市は静岡市と浜松市であり、工業出荷額の多さは東海工業地域があることが影響しています。なお愛知県は、工業出荷額では静岡県をはるかに上回りますが、政令指定都市は名古屋市しかありません。

次にBは、海岸線の長さが0kmとありますので、内陸の県とわかりますが、残念ながら岐阜県と滋賀県はともに内陸のためこれだけでは判別できません。そこでヒントとなるのが標高2000m以上の山の数です。滋賀県は中央に琵琶湖が位置し、その周囲は比較的平坦な地形が広がります。それに対して岐阜県は面積も広く、東西を飛騨山脈（北アルプス）と両白山地に挟まれていることもあり、標高の高い山が多くなります。また、岐阜県が隣接する都道府県は7つと多く、これは長野県の8つに次ぐ数です。

Cの大阪府と京都府との違いは政令指定都市の数です。大阪府には大阪市と堺市の2つの政令指定都市がありますが、京都府には京都市の1つしかありません。また、工業出荷額を見ても、京都府の5.1兆円に対し、阪神工業地帯の中心である大阪府は16.7兆円と3倍以上多くなっています（ともに2011年）。

Dの東京都と神奈川県を見分けるポイントは、政令指定都市の数と工業出荷額です。首都である東京は他の道府県にはない特別区（23区）が設置されていますが、政令指定都市はありません。一方神奈川県は現在横浜市・川崎市・相模原市の3市が指定されています。工業出荷額は、臨海部に石油化学コンビナートや製鉄所を擁する神奈川県は多くなりますが、都市型の工業を中心とする東京都は神奈川県の半分程度にとどまっています（神奈川県は17.9兆円に対し東京都は8.9兆円（ともに2011年））。

[平成20年度出題]

正解

ア